

「2023年に生まれた子どもは72万6千人 過去最少 朝日新聞推計」朝日新聞デジタル 2023年12月24日配信

1. 2023年に国内で生まれた日本人の子どもは、推計で72万6千人程度になることがわかった。国と同じ方法で朝日新聞が計算した。
2. 22年には統計のある1899年以降で初めて「80万人割れ」したが、23年も過去最少を更新する見通し。少子化に歯止めがかからない状況だ。

児童手当の拡充、大学「無償化」…支援金の説明は「けむに巻く」議論

3. 厚生労働省が1年間の出生数の推計に使う計算式に、23年1～10月の速報値などの統計をあてはめて算出した。その結果、23年の出生数は72万6416人。22年の確定数は77万759人で、それより5・8%程度減る見通しだ。22年は前年比5・0%（4万863人）減ったが、減少幅はさらに広がることになる。
4. 国立社会保障・人口問題研究所が4月に公表した将来推計人口は23年の出生数を73万9千人と見込むが、その水準も下回る。将来推計ではコロナ禍の婚姻減などの影響が弱まり、24年に75万5千人になった後、緩やかに減って34年に72万人台になるとみる。

[コメント]

この分だと70万人台が2022年、2023年と2年間で終わり、2024年は70万人を割り、60万人台に突入。公立小・中・高はどんどん閉鎖・合併がすすめられています。どうする日本、どうする開倫塾、どうする塾・予備校、私立学校。

2023年12月25日 林明夫